

令和元年6月26日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03900

研究課題名(和文)協働プラットフォームの創発・発展における仲介者の行為・意味形成・学習に関する研究

研究課題名(英文)The roles of intermediaries for the emergence and development of collaboration platform and their activities, sense making and learning

研究代表者

稲垣 京輔 (INAGAKI, Kyosuke)

法政大学・経営学部・教授

研究者番号：10327140

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、協業プログラムにおける主体間の関係性がいかに変化するかに着目し、協働における創造性が促進されるメカニズムについて明らかにした。より具体的には、第一に、プラットフォーム上での協働を促進する要因について調査をおこない、各主体が埋め込まれた制度的な阻害要因を超越するために、どのような行為を展開してきたかについて詳細な記述を行った。第二に、協業プラットフォーム上での活動に関して、どのように創造性とビジネス性を両立しているかについて明らかになった。第三に、協働におけるコミュニケーションに関して記述的な調査をおこなうことで、協業における創造性が発動されるメカニズムについて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、昨今、様々な形で行われている公民連携におけるプロジェクトの進め方について、ビジネス性と創造性をいかに両立しうるかについて、様々な示唆を与えるものである。とりわけ、衰退過程にある成熟産業の担い手は、これまで関係を持たなかった他分野との協業によって新たな事業を立ち上げていくことが必要であり、今や国レベル、自治体レベルにおいて、様々な形で支援が行われているものの、プロジェクトの成果やメンバーの関係性の発展についてはほとんど取り上げられてこなかった。本研究では、こうした連携のプラットフォームとなる支援プログラムにおいて、コーディネーターがどのように介入し、創造性を高めるかを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this study, we showed how the relationship between actors in public collaboration program changes, and clarified the mechanism that promotes creativity in collaboration.

More specifically, 1) we investigated the factors that promote collaboration on the platform, and we made a detailed description of what actions have been taken to remove the institutional impediments that each actor has embedded. 2) it became clear about how to be compatible with creativity and business in terms of activities on the collaboration platform. 3) by conducting a descriptive survey on communication in collaboration, we clarified the mechanism by which creativity in collaboration is triggered.

研究分野：経営学

キーワード：協働 プラットフォーム 創造性 越境学習 仲介者 伝統産業

## 1. 研究開始当初の背景

本研究課題の着想の学術的背景にあるのは、2000年代後半から、ヨーロッパでの企業家研究において援用されつつある社会構築主義的な分析視角である (Fletcher, 2006)。近年、企業家研究において言語論的/実践論的転回へとシフトしたのは、起業という現象を構成する一人一人の主体の実践が社会や制度的な枠組みを変えるというような、いわゆるビッグストーリーの文脈に陥っていることへの反省に基づいている。実際に、最近の2~3年の間には、このような立場に立つ研究が一つの潮流となり、Journal of Business Venturing 誌や Entrepreneurship Theory and Practice 誌などの主要ジャーナルにおいてナラティブな分析方法を用いた特集が相次いで企画・発刊され、本研究では、起業家活動を当事者の実践を多主体間の関係性の内から捉えるという、関係論的アプローチに着目した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、異業種連携を意図する主体を対象とし、出自の異なるアクターがどのように連携し、既存の事業のしくみや取引慣行を変えていくかについて、その創発的な行為連鎖プロセスを社会構築主義的な観点に基づいて明らかにすることである。とりわけ、プロジェクト・ベースの組織化プロセスを題材としながら、その立ち上げから制度やしくみを再構築するまでのプロセスを追跡的に調査することによって、形成初期段階における価値連鎖、資源動員プロセスを明らかにする。

この研究テーマを具体化するために、以下のような3つの課題を設定した。第一に、プラットフォーム上での協働を促進する要因について調査をおこない、各主体が埋め込まれた制度的な阻害要因を超越するために、どのような行為を展開してきたかについて明らかにする。第二に、あらたな協業をともなう事業活動が資源獲得において正当化された時に、彼らの活動の成果が、協働のプラットフォームの発展にどの程度還元されるかについて明らかにする。第三に、連携のプラットフォームに参加するメンバー(Leader と Follower)に対して、彼らのコミットメントと創造性に関する記述的な調査をおこなうことで、プロジェクトベースの協働における学習関係を明らかにした。

## 3. 研究の方法

本研究において調査対象として想定したのは、当初は主に代理店系の下請けから脱却し同業者ネットワークの構築を目指す独立系クリエイター、医療用機器の開発に取り組もうとする機械金属系の製造企業などであったが、結果的に調査可能性の制約から、伝統工芸に携わる職人とアーティストの協業プロジェクトをマネジメントするプラットフォームにオブザーバーとして参加し、観察記録を学習、創造性という切り口から分析した。本研究では、協業を行う主体以外に、彼らを取り巻くコーディネーション組織、行政、そして同業者組合などが含まれることによって、利害関係の中でどのような関係が再構築されるかについて明らかにした。彼らの行為がどのように交差することによって、どのように価値や意味が付与され、制度的な枠組みが再構築されるかについて、10の協働チームへのヒアリング定点観測から実践的な知見を導出した。

## 4. 研究成果

本研究では、伝統産業の職人とフランス人アーティストの間における協業プログラムを事例として、主体間の関係性がいかに変化するかに着目し、協働における創造性が促進されるメカニズムが明らかになった。第一に、協働プラットフォーム上でのマネジメントについては、第三者として協業における創造性をコントロールする効果的な方法はリニアな、各主体が埋め込まれた制度的な阻害要因を超越するために、どのような行為を展開してきたかについて詳細な記述を行った。第二に、協業プラットフォーム上での活動に関して、どのように創造性とビジネス性を両立しているかについて明らかになった。第三に、協働におけるコミュニケーションに関して記述的な調査をおこなうことで、協業における創造性が発動されるメカニズムについて

明らかにした。

それによると、協働関係をより創造性を高めるために必要なのはプロジェクトメンバーの拡張的学習であり、その有無が必ずしも成果指向型対話から生まれるわけではないということであった。したがって、仲介者による協働における創造性を高めるマネジメントは、必ずしもリニアな方向づけを伴うものではなく、創造性を高める環境を整えることによって達成されることが発見事実として確認された。

なお2つの学会にて報告した論文については、現在、加筆修正の上で専門誌への投稿準備中である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

1) Kyosuke Inagaki, Xavier Lesage, “Entrepreneurial activities with transitions of the creative contexts: Behavioral changes from artisan to coordinator in a traditional craft industry” 1st Workshop on Entrepreneurship: Culture and Institutions May 10 - 11, 2018 at Faculty of Management, University of Warsaw

2) 稲垣京輔, Xavier Lesage 「伝統産業における企業家活動を通じた国際化とイノベーション」日本ベンチャー学会全国大会、2017年12月2日、九州大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究分担者

なし

(2) 研究協力者

研究協力者氏名: Xavier Lesage

ローマ字氏名: Xavier Lesage

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。